

低 T3 症候群に中枢性甲状腺機能低下症 を合併したラトケのう胞の 1 例

野 津 和 巳¹⁾³⁾⁵⁾ 仲 田 典 子¹⁾²⁾ 並 河 哲 志³⁾
増 野 純 二⁴⁾ 栗 岡 裕 子⁵⁾ 杉 本 利 嗣²⁾

キーワード：低 T3 症候群，中枢性甲状腺機能低下症，ラトケのう胞

要 旨

当初低 T3 症候群と診断されていた10歳台女性例を経験した。心療内科での加療でも改善しなかったために、内分泌学的に精査を行った。ラトケのう胞の合併とともに、中枢性甲状腺機能低下症が認められた。TRH に対する TSH の低反応，下垂体 MRI 検査でのラトケのう胞の存在から診断した。甲状腺ホルモン剤による補充療法にて全身状態の著明な改善を認め、当初認められていた無月経なども改善した。中枢性甲状腺機能低下症に低 T3 症候群を伴い、甲状腺ホルモン剤が著明に奏効した症例であった。

はじめに

低 T3 症候群は、心筋梗塞・糖尿病・重篤な感染症など体力的に消耗しうる重篤な疾患において時に認められる状態である¹⁾。甲状腺ホルモンであるサイロキシン (T4) が活動性のあるトリイオドサイロニン (T3) に変換されず、生物活性のほとんどないリバーズ T3 (rT-3) に代謝されていくために生ずる病態である。一般にこの状態を認めた場合には、何らかの重篤な疾患が存在し

ている場合があり、その治療を行うことにより、臨床症状の改善とともに低 T3 状態からも離脱する。また、神経性食思不振症など体重減少をきたすような疾患においても低 T3 症候群は認められ、若年女性の場合には無月経となることもよく知られている。今回体重減少と無月経を主訴に治療されていた症例に対して、内分泌学的精査により中枢性甲状腺機能低下症と診断した症例を経験した。

症 例 提 示

症例は、10歳代後半の女性。主訴は、全身倦怠感、体重減少、続発性無月経、活動性の低下である。家族歴に甲状腺疾患はない。既往歴にも特記すべきものはない。元来活発な性格であり、部活動なども積極的に参加していた。体重を落とすよ

Kazumi NOTSU et al.

1) 大学前のつ内科クリニック

2) 島根大学医学部内科学講座第一

3) 島根県立中央病院内分泌代謝科

4) 同 地域医療科 5) 同 産婦人科

連絡先：〒690-0825 松江市学園2丁目27-17

大学前のつ内科クリニック